2026NFAスーパーカップ【チャレンジ】開催要項

１　趣　　旨　（一社）奈良県サッカー協会は、次代を担うU-15 年代の技術の向上と心身の健全な育成を図るとともに、第３種年代の普及と底辺拡大を目的として、全国大会に発展しない奈良県独自の本大会を実施する。

２　大会名称　2026NFAスーパーカップチャレンジ

３　主　　催　（一社）奈良県サッカー協会

４　主　　管　（一社）奈良県サッカー協会　第３種委員会

５　協　　賛　（株）モルテン

６　期　　日　２０２６年１０月　3日（土）から１０月１７日（土）決勝までの土・日・祝日
※予備日：１０月１８日（日）

７　試合会場　奈良県フットボールセンター及び県内各グラウンド

８　参加資格　（１）（公財）日本サッカー協会（以下本協会という）第3種または女子に加盟登録したチームであること（準加盟チームを含む）。

（２）上記（１）のチームに2026 年 ８月31 日までに登録された選手であること。但し、一家転住等の理由により上記期限以降に移籍または追加登録した選手が大会参加を希望する場合は、第３種委員長の別途了承のもと大会への参加が認められる。

（３）本協会により「クラブ申請」を承認された「クラブ」に所属するチームについては同一クラブ内のチーム間であれば移籍手続きを行うことなく本大会に参加させることができる。尚、本項の適用対象となる選手の年齢は第４種年代のみとし、第3種およびそれ以外の年代の選手は、適用対象外とする。但し、大会エントリー時に必要な３種年代の選手は最低８名、最小選手数は 11 名とする。４種年代、女子の選手登録人数は最大５名とし、１試合の同時出場は最大３名とする。

（４）選手数（協会登録）が不足している同種別の複数チームによる「合同チーム」の大会参加については、次の条件を満たしている場合のみ認めることとする。但し、11 名以上の選手を有するチーム同士の合同は不可とする。

① 合同するチーム及びその選手は、それぞれ⑴および⑵を満たしていること。
② 極端な勝利至上主義を目的とする合同でないこと。
③ 大会参加申し込みの手続きは、それぞれのチーム代表者が協議の上、代表チームが行う。
④ 合同チームとしての参加を第3種委員長が別途了承すること。

（５）同一チームによる複数編成チームの参加を認める。

① チャレンジに複数チームをエントリーする場合、選手・役員（指導者）の重複は認めない。尚、エントリーメンバー票を作成し、監督会議の際に提出すること。
② 関西サンライズリーグおよびNFA スーパーカップ【プレーオフ】出場チームがエントリーする場合、上記大会への登録選手 13 名をプロテクトすること。
尚、プロテクト選手名簿を作成し、監督会議の際に提出すること。
③ 準決勝・決勝において、【プレーオフ】出場選手の【チャレンジ】への出場は不可とする。（FP のみ適用／GK は適用外）

（６）共通理解事項として、以下の条件を確認しておく

① 登録完了日とは、（一社）奈良県サッカー協会事務局の承認日であること。
② チームとして、有資格審判員の帯同が可能であること。〈1～2名〉

9　競技方法　（1）トーナメント方式により、優勝以下第3位までを決定する。

（2）試合時間：70分（35−10−35）

規定の競技時間内に勝敗の決しない場合はペナルティーキック方式により、次回戦に進出するチームを決定する。但し、決勝戦においては５分間の休息の後、10分(5分ハーフ)による延長戦を行い、なお決しない場合はペナルティーキック方式により勝敗を決定する。

（3）参加チーム数により、最終的な大会方式を決定する。

10　競技規則　（1）最新の(公財)日本サッカー協会、「サッカー競技規則」による。

（2）選手交代

大会参加申込み（エントリー）した最大40名の選手のうち、ゲームエントリー（ベンチ入り）は最大25名までとする。交代要員最大14名の内９名までが主審の許可を得て交代することができ、「再交代」は実施しない。交代回数は各チーム最大３回までとする。但し、ハーフタイムでの選手交代は交代回数には含まない。尚、決勝戦のみ延長戦に入った場合は交代回数を１回追加する。（「飲水タイム」「クーリングブレイク」「中止→再試合」時の交代は交代回数に含む）

※脳震盪またはその疑いのある選手が発生した場合の取り扱いは次の通りとする。

a. 脳震盪またはその疑いのある選手の交代（以下、「脳震盪交代」という）は通常の交代には含まれない。

b. 脳震盪交代と通常交代を同時に行った場合、通常交代および脳震盪交代の交代回数をそれぞれ１回とカウントするものとする。

c. 脳震盪交代をした場合、相手チームは通常交代とは別に、１名１回の交代を追加で得ることができる。（以下、「追加交代」という）。ただし、追加交代と通常交代を同時に行った場合、通常交代および追加交代の交代回数をそれぞれ１回としてカウントするものとする。

d. １試合における各チームの脳震盪交代および追加交代の交代人数はそれぞれ１名とする。

（3）ベンチ入りできる役員の数は、５名までとする。（選手不可）

（4）退場処分を受けた者、または警告を2回（累積）受けた者は、次の１試合に出場できない。それ以外に、処遇を奈良県3種規律委員会にて審議、決定する場合がある。NFAリーグ最終戦で退場処分を受けた選手、もしくは複数試合の出場停止処分が未消化の選手は、本大会に持ち越す。

（5）試合開催時の天候に応じて、WBGT 計の測定結果および会場責任者、審判、チームスタッフと十分に協議の上、飲水タイム（クーリングブレイク）を設けることができる。

（6）日没、雷等により試合続行が不可能と判断された場合は、サスペンデットゲームとし、後日試合を中断する前の状態から再開する。したがって、両チームの出場メンバーは原則として変更することが出来ない。ただし、中断前の試合で出場していた選手が続行試合当日に怪我や疾病などを理由に出場できない場合など、不可抗力による選手交代は交代メンバーの中で認められる。交代メンバーの補充も同様とする。尚、雷等の場合、中断時間は60分を目安とする。その判断は、主審が会場責任者と協議の上、決定する。

11　表　　彰　優勝以下第3位までに表彰状、トロフィーを授与する。

12　そ の 他　（1）チーム代表者は、原則第１試合の開始45分前（各会場にて変更可）に本部に集合し、運営にあたること。但し、競技場の準備等（補助員等）については、別に会場担当及び大会本部より連絡をすることがある。

（2）選手のエントリーは、所定の用紙を使用し行うこと。チームの初戦打合せ時に、本部へ1部提出しチェックを受ける。以後、チェックを受けたエントリー用紙の複写を各試合のエントリーメンバー票とする。また、各試合15分前までにエントリーメンバー票の先発メンバーに11名に［〇］印、交代メンバー14名「△」をつけ、本部に2部（場合によっては3部）提出すること。

（3）ユニフォーム規定は以下のとおり。

① 選手はすべて同一の服装であること。

② ゴールキーパーの服装は他の選手と区別できる服装であること。

③ ユニフォームは色違いのものを２着用意すること。同系統色が重なった場合、コイントスの上、一方のチームにユニフォームの変更を求める。

④ ユニフォームへの広告表示については、（公財）日本サッカー協会「ユニフォーム規程」に基づき承認された場合のみこれを認める。但し、（公財）日本中学校体育連盟加盟チームは、連盟規定によりこれを認めない。尚、広告が掲載されたユニフォームを着用する場合は、（公財）日本サッカー協会発行の「広告掲示回答書」のコピー（PDF）を３種委員長へ提出すること。

⑤ シャツの前面・背面に登録した番号を付けること。ショーツの番号は付けることが望ましい。

※但し、本大会では以下の内容も認める（大会前に必ず相談してください）

A) 本競技会に登録した 1 着以上のユニフォーム（シャツ、ショーツ及びソックス）を試合会場に持参し、着用しなければならない。（２着以上の持参が好ましい）

B) ユニフォームデザイン、ロゴ等が異なっていても、本競技会主催者が認める場合、主たる色が同系色であれば着用することができる。

C) ゴールキーパーのユニフォームについて、ショーツ、ソックスはフィールドプレーヤーと同系色でも良いものとする。

D) 主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合においていずれのチームがビブス等を着用することを決定する。

E) ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。

F) アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。

G) キャプテンが着用するアームバンド

① フィールド上にアームバンドなどを着用したキャプテンがいることを必須としない。

② アームバンドの代用としてテープなど着用することができる。

（4）各チームの登録選手は原則として JFA 発行の選手証（電子選手証）を持参しなければならない。但し、写真貼付により顔の認識ができるものであること。

※電子選手証とは、JFA の WEB 登録システム「KICKOFF」から出力した「登録選手一覧」（番号順）をカラー印刷したものを原則とする。

（5）審判は必ず審判服を着用すること。また試合開始 30 分前に到着し、審判団として打ち合わせを行うこと。主審は審判報告書を作成した上で、審判委員長まで提出すること。第４審も試合前に指名しておく。尚、審判は有資格者で有り、審判証を携帯し提示すること。（ユース審判不可）

（6）マッチコーディネーターをおくこと。第３者的立場の派遣役員に依頼することが望ましいが、無理な場合は、その会場の役員の中から指名をする。

- 試合運営の責任者である。
- グラウンド状況の把握。
- 試合運営状態、試合進行状況の把握とチェック。
- 選手の態度のチェック。
- 審判員のチェック。
- 悪天候や試合におけるトラブルが発生した場合、審判団、役員と協議の上で試合続行の可否について最終判断を下す。

（7）チームの責任において、参加者全員が傷害保険に加入すること。
大会期間中の負傷及び疾病に対して、各チームで対応し、主催者はその責を負わない。また、物損等の場合も同様とする。

（8）試合球はＪＦＡ公認5号球（ヴァンタッジオ4000／F5N4000）を使用する。
※大会球を用意します。

（9）敗退したチームの関係者は、次回戦に進出すべき予定ゲームの競技役員及び審判を務めなければならない。（補助員の場合も含む）

（10）会場では運営役員の指示に従い、サッカー関係者としてのマナーを十分心がける。（応援の保護者等も含む）

（11）大会規定の違反、その他不都合な行為があった時、または大会要項に規定されていない事項については、3種運営委員会において協議の上、対応を決定する。